



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和6年度 第2号

令和6年4月26日

さいたま市立土合小学校

自分の行動を決めるものとは？

校長 白倉 秀樹

学校の様子も4月の頃から少しずつ変化が見られ、緑豊かな5月がやってきました。子どもたちからの元気なあいさつが響き渡り、新しい生活に慣れてきたことがうかがえます。今年度のようにこそ1年生の会は、何年かぶりに体育館で行いました。全学年が一堂に会し、体育館で入学してきた1年生をお祝いしました。6年生が実に見事に1年生をエスコートし、代表委員会の皆さんが会を運営していました。自分たちで考えたことを実践していることがよく伺える素晴らしい会でした。

4月18日（木）に全国学力学習状況調査が行われました。本校の6年生が参加しました。私も調査問題に取り組みましたが、問題の前提条件がしっかりと説明されたうえで解答する形式がほとんどでした。ですので、一問一答の問題ではないところが、思考の連続性を問われていると感じました。

現在私は、土合小学校に着任してから、子どもたちの情報を集めています。昨年度行われたさいたま市学習状況調査も情報の1つです。調査結果はとても興味深いものでした。私が今回注目したのは、「生活習慣に関わる調査」です。

土合小学校の子どもたちはきちんと朝ご飯を食べ、同じ時刻に寝て、同じ時刻に起きているという実感を持って生活していることがよくわかります。自尊意識も高く、自分がやると決めたことはやり遂げると意識できている子は、93%もいます。自分に良いところがあると自覚している子どもたちは、学年によって差がありますが、87%～94%います。意外だったのが、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているという意識が75%で、市の平均より10%近く低いという点でした。

上記の結果や他の様々な子どもたちへのアンケート結果を根拠として、今、本校の先生方は教育活動を展開しております。私はこの「根拠」というものを重要視しています。昨年度行ったから、とか、他でやっていたからというのは根拠として成立しません。御家庭でも時々耳にする「この前の夏休みに旅行したから、またどこか連れてって～」とか「同じクラスの〇〇ちゃんがゲーム持っているからうちも買って～」という言い分が通用しないことと同義です。どうしてこの時間にこの活動を行うのか、この学習を進めるのかなどは、子どもたちの実態や学習理解の定着度が根拠となります。

そして、この根拠を明確にするには「分析」が必要です。経験則による主観も大切ですが、それだけでは本当の意味での分析につながりません。今、子どもたちに自主的な行動を呼びかけていますが、自分で考えるということは、自分で自分を分析することが一番重要なことだと私は定義しています。そして、自分のできていることとできていないことをしっかりと把握することが根拠となり、自分が取り組むべき行動を決めていけるのではないのでしょうか。